富岡製糸場総合研究センターだより
No. 23
（2023年1月発行）

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

首長館（しゅちょうかん）の廊下を覗いてみよう

首長館は官営模範製糸場建設のための指導者として明治政府に雇われたフランス人ポール・ブリュナが家族と暮らしていた宿舎です。建物の北東側から廊下を見てみると、各部屋の入口扉の上の方に、『第一教室』『洋裁室』などと書かれた表示札が付いているのがわかります。なぜ、宿舎として使われていた建物にこのような表示札が付いているのでしょう？

ポール・ブリュナが 1875(明治 8)年末に政府との契約が終了し、富岡から去った後、首長館は工女などの宿舎や教育・娯楽の場として使われました。首長館がいつからそのような使われ方をしたのかは不明ですが、現在の表示札は、操業停止時、片倉富岡高等学園として使われていた時のまま残っています。

記録によると、官営期における富岡製糸場の工女は、13 歳～20 歳までが 8 割を占めていました。富岡製糸場では 1876(明治 9)年頃から、余暇の時間に読み書き、算術、裁縫といった基礎的教養を学ぶことができました。日本で学制が発布されたのが 1872 年 9 月※1(明治 5 年 8 月※2)のため、富岡製糸場では、早い段階から工女のために学習の機会があったことがわかります。

※1 新暦　※2 旧暦

バックナンバーはこちらから▼

◆発行◆
富岡市世界遺産観光部　富岡製糸場総合研究センター